

令和4年度第2回我孫子市総合教育会議 概 要

- 件 名／令和4年度 第2回我孫子市総合教育会議
- 日 時／令和4年12月23日（金） 11：00～12：15
- 場 所／教育委員会 大会議室
- 出席者／星野市長、丸教育長、蒲田教育委員、村松教育委員、新山教育委員、
中村教育委員
山元企画総務部長、飯田教育総務部長、菊地生涯学習部長
（教育総務課）森田課長、吉枝主任主事
（学校教育課）鈴木課長、近藤主任主事
（指導課）佐々木課長、森谷主幹、五十嵐係長
（文化・スポーツ課）辻課長
（秘書広報課）岡田課長、安武課長補佐
- 欠席者／なし
- 傍聴人／なし
- 協議・調整事項

1. 市川市立塩浜学園視察報告について

令和4年11月18日に教育委員会が実施した「市川市立塩浜学園視察」の概要報告と、施設形態と小中一貫教育について、学校教育課及び指導課より説明し、意見交換を行った。

（意見交換）

- ・ 小中学校の教育方針は教育委員会、その教育方針に合わせた施設整備については市長の責任で行っていく。市立の小中学校は全部で19校あり、そのなかでも老朽化している校舎があるため、整備の方向性を検討する時期に来ている。検討の結果、施設一体型で整備していく中学校区も出てくると考えているし、すべての中学校区で施設一体型になるとも考えていない。現在、布佐中学校区で検討が始まっているが、担当課から説明があったように、様々なパターンがあると思う。十分に議論を尽くして、布佐中学校区ではどのような教育の在り方が良いのか結論が出た頃に、その教育を実現するための校舎を整備していきたい。ほかの中学校区についても、今後検討が始まっていくと考えて

いる。

- ・ 例えば、施設一体型になった時には、グラウンドで中学生と低学年が一緒に遊ぶと危ないこともあるので、低学年用を別に整備するなど、安全面の配慮は必要と考える。
- ・ 施設一体型、分離型それぞれに、メリットとデメリットがあると思う。メリットを最大限にしていくために、様々な場所を視察してほしい。
- ・ 塩浜学園を実際に視察し、布佐中学校区のイメージに近いと感じた。施設一体型にする場合に、6年生にあたる学年が最高学年という立場にならないことで自立心が生まれにくいというデメリットがある場合は、例えば、学校段階に応じて、小さいグラウンドから大きいグラウンドに使用場所を変更したり、生徒会活動を活用したりして、区切りをつける工夫をしても良いと思う。
- ・ 前回視察したつくば市立みどりの学園義務教育学校は、規模が大きく、具体的なイメージをしにくかったが、今回視察した塩浜学園は、布佐中学校区と規模感が近く、イメージしやすかった。「はまっこサポート」（塩浜学園生の成長を見守るPTA、自治会、地域ボランティアなどの皆さん）は、布佐中学校区で地域の皆さんが子どもたちを見守っている形と似ていると感じた。
- ・ 視察には参加できなかったが、報告を聴くと、施設一体型のメリットが多いように感じる。あとは、登下校の距離・時間が課題になるのではないか。
- ・ 学校の在り方を検討する中で、例えばスクールバスの運行や、校舎・グラウンド、体育館の場所など、教育委員会で解決できない課題は、市長部局で解決のための方策を検討することができる。そのためには、この総合教育会議の場を活用してほしい。

2. 教育大綱の見直しについて

令和4年度末を目途に見直しを進めている教育大綱について、秘書広報課及び教育総務課より説明し、意見交換を行った。

（意見交換）

- ・ 来年3月を目途に見直しを進めている。見直し後の教育大綱を踏まえて、来年度、我孫子市教育振興基本計画を見直すことになる。そのことも

見据えながら、教育大綱の見直しを進めていきたいと考えているので、教育委員の皆さんからも意見や提案をいただきたい。

■その他

○ 「我孫子市スポーツ推進計画」について

令和4年12月22日から令和5年1月23日までパブリックコメントを実施していることなどについて、文化・スポーツ課より説明を行った。